

## 【一般演題4】 第22席

## 「奇経と八総穴の関連性に対する一考察」

大阪 武中 一郎

今日、「八総穴は奇経の治療穴である」という概念は完全に固定化し誰も疑わぬものとなっている。しかし八総穴のうち奇経の流注に所属するものは僅かに二穴で、他の六穴は流注上に存在しないなど疑問な点もある。

奇経に関する最古の記述は『素問』『靈枢』『難経』『脈経』に散見されるが、詳細な流注については宋代の『聖濟総録』を起源としている。しかし、八総穴との関係については一切触れていない。一方、八総穴は元代の『鍼経指南』に「交経八穴」として始めて記載されるが、奇経との関係には言及していない。奇経と八総穴の関連性を始めて説いたのは、明代の『鍼灸大全』からである。

このように元来起源の異なるものがある段階で融合することは、中国医学では決してめずらしいことではない。しかし根拠や必然性のない融合ならば、単純に受け入れる訳にはいかない。

そこで『鍼経指南』『鍼灸大全』記載の八総穴の主治症群、及び『聖濟総録』記載の奇経八脈交会穴の主治症群（『甲乙経』より抜粋）を整理・分類して、分類ごとの件数より構成比を求めグラフ化することにより、視覚的に病症群の特徴を明らかにする試みを行った。その結果から奇経と八総穴の関連性について考察する。